前期日程

令 和 8 年 度 入 学 試 験 問 題

小論文 （学校教員養成課程共通）

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで，この問題用紙の中を見てはいけません。
2. 解答はすべて別紙解答用紙に記入しなさい。
3. 解答用紙は１枚，草稿用紙は１枚です。
4. 解答用紙の，受験番号欄に受験番号を記入しなさい。
5. 解答はすべて横書きにしなさい。
6. 試験終了後，問題用紙と草稿用紙は持ち帰りなさい。

次の文章を読んで，あなたは学校教育における「教える」と「育つ」の関係をどのように考えますか。また，それを踏まえ，あなたはどのような教育をめざしたいと考えますか。合わせて 600 字以内で記述しなさい。

教育という字は，「教」と「育」に分けることができる。そして，興味深いことは，育という語は，育てる，育つ，と他動詞にも自動詞にも用いられることである。

教育ということには，教育する側と，教育される側とがあり，教育する方から考えると，やはり自分が「教える」という行為に重点がおかれ，その後で，「育てる」ということが考えられるが，「育つ」となると，これはその本人の自発的なはたらきであるから，教育とは関係がない，あるいは考慮の外にある，ということになりがちである。

しかし，教育ということを深く考えるならば，そのベースに，教育される側に潜在している自ら「育つ」力ということを無視することはできないのではなかろうか。

（中略）

心理臨床の場合，どうしても一般的な「教える」システムからはみ出した子どもに接することが多い。最初の頃は，そのような子どもに対しても，「なすべきこと」を教えようと試みたりもしたのだが，失敗を繰り返しているうちに，われわれは「教える」ことを焦るよりも，根本的には，「育つ」のを待つ方が，はるかに効果的であることを知らされたのであった。そして，それは単に効果的であるということをこえて，教育全般に対しても，「育つ」ことの重要性をもっと認識すべきであるという反省へとつながってきたのである。

【引用文献】河合隼雄『子どもと学校』(1992 年，岩波書店)